

# 2024 年度 玉川学園高等部入学試験問題

## 国 語

(注意事項)

- (1) 試験時間は 50 分間、配点は 100 点満点です。
- (2) 問題用紙は冊子 1 部、解答用紙は 1 枚です。
- (3) 解答用紙の受験番号欄には受験番号のみを記入して下さい。
- (4) 解答は、すべて別紙の解答用紙の所定欄に記入して下さい。
- (5) 解答用紙の\*欄には、何も記入してはいけません。
- (6) 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないで下さい。
- (7) 印刷が不明瞭な場合をのぞいては、質問を受け付けません。

【一】 次の問いに答えなさい。

問一、次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 ケイヤクを結ぶ。
- 2 新聞紙をタバねる。
- 3 作戦のモウテンを突く。
- 4 鳥がツバサを失う。
- 5 画像をソえて送る。

問二、次の——線部の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

- 1 奴隷を解放する。
- 2 計画の進捗を見守る。
- 3 茨の道を歩む。
- 4 匿名で手紙を出す。
- 5 街が廃れる。

問三、次の文章について、それぞれの問いに答えなさい。

昨日は学校が休みだった<sup>a</sup>ので、私は友達と新しく公開された映画を観に行った。映画の内容は期待していたよりも面白くて、私たちは楽しい時を過ごす<sup>b</sup>ことができた。その後、服を<sup>c</sup>買おうと思っていたが、お店が混んでいた<sup>d</sup>ので何も買わないで家に帰った。

1 線部 a 「ので」の助詞の分類として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 格助詞      イ 接続助詞      ウ 副助詞      エ 終助詞

2 線部 b 「こと」の品詞名を答えなさい。

3 線部 c 「う」の助動詞の意味として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 希望      イ 意志      ウ 断定      エ 否定(打ち消し)

4 線部 d 「買わ」の活用形として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 未然形      イ 連用形      ウ 連体形      エ 仮定形

5 文章全体から、活用して連体形になっている形容詞を一つ抜き出して答えなさい。

【二】次の文章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはいずれも村上靖彦『客観性の落とし穴』の一部である。Ⅰは「はじめに」の一部で、ここには筆者の問題意識が提示されている。Ⅱ・Ⅲは「第三章 数字が支配する世界」の一部で、Ⅰで提示された問題に対して具体的な日本の現状に触れながら論じている。これらを読んで後の問いに答えなさい。なお設問の都合上、本文を一部改変している。

## I

貧困について議論していた授業で、生活保護をめぐってこんなコメントが来たことがある。

<sup>1</sup>「働く意思がない人を税金で救済するのはおかしい」

私たちは汗水垂らして働かながらわずかな収入を削って税金を納めている。たしかに苦勞している私が払った税金で「働く意思がない人」を助けるというのは腹立たしいかもしれない。

でも、もしかすると、「働く意思をもたない」人にはなにかの事情があるのかもしれない。フィールドワークのなかで、うつ病で朝起きることができないひとり親家庭に出会うことがあった。その母親は、パートナーの<sup>\*</sup>DVから子どもを連れて逃げてきて、暴力の後遺症でうつ病に苦しんでいた。

精神障害や発達障害といった事情ゆえに、安心して働く環境を手にすることができないならば、それは社会の側が排除しているのかもしれない。働きたいと一度は思ったが働けるチャンスがないため働くことをあきらめる人もいる。社会のほうで、働きやすい環境を作ること困難にしているのだとすると、<sup>2</sup>社会が生活を支えることは自然なことだろう。

おそらく学生たちのコメントは私たちの社会の代表的な意見でもあり、私自身もかつては同じように考えていた。学生が、社会的に弱い立場に追いやりられた人に厳しいのは、そもそも社会のなかにそのような厳しい視線が<sup>\*</sup>遍在しているからだ。そして、その言葉のなかに社会をどのように考えていくとよいのか、<sup>3</sup>どう行動したら私たち自身が生きやすくなるのかのヒントもある。そこで、本書では、私たち自身を苦しめている発想の原因を、数値と客観性への過度の信仰のなかに探る。

一見すると、客観性を重視する傾向と、社会の弱い立場の人に厳しくあたる傾向には、直接の関係はなさそうだ。しかし、両者には数字によって支配された世界のなかで人間が序列化されるという共通の根っこがある。そして序列化されたときに幸せになれる人は実のところほとんどいない。勝ち組は少数であるし、勝ち残ったと思っている人もつねに競争に脅かされて不安だからだ。

さらには、こういった社会への厳しい視線は、学生自身を苦しめている。なぜなら、自分自身を数字に縛り付けて競争を強いるからである。かつて私も

そうだった。競争することが社会のなかで大事なことなのだと思いこんでいた。私が教える学生たちの多くも、競争へと駆り立てられ自分で自分を苦しめている。この数字と競争への強迫観念から解放されることで私自身も楽になった。

とはいえ数字を用いる科学の営みを否定したいわけではない。数字に基づく客観的な根拠はさまざまな点で有効であるし、それによって説明される事象が多いことは承知している。それでも、数字だけが優先されて、生活が完全に数字に支配されてしまうような社会のあり方に疑問があるのだ。数字への素朴な信仰、あるいは数値化できないはずのものを数字へと置きかえようとする傾向を問いなおしたい。

## II

日本の若者の多くは受験勉強を強いられ、偏差値を気にしているだろう。<sup>5</sup> 日本では長年にわたり偏差値によって学校は一直線にランク付けされ、受験生たちは模擬試験や本試験の結果に I している。誰もが自由に学ぶ権利をもつはずなのに、学校にランク付けがあり、入学試験で排除することがあるということとは奇妙でもある。

また、さまざまな研究分野をもつ大学が、なぜ「私立文系」「国立理系」といった雑なくくりのなかで序列がつけられるのだろうか。私たちはそれぞれ興味を持つことが異なり、そもそも興味や得意は、中学や高校で行われる教科からはみ出ることが多いだろう。

さらに大学に行ってから多様な学びと研究は、高校までの画一的な教科とはまったく質が異なる。学生自身一人ひとりの願いは異なり、大学の学部への多様さがあるなかで、偏差値という単純な数字を頼りにして序列化することで何が判断されてきたのだろうか。しかし、これほど当たり前ものとして受け止められているのは、数字の呪縛がそれだけ強いということでもある。

一九五七年に東京都港区の中学校教員だった桑田昭三が、学力偏差値を考案した。当初は教員の勘に頼っていた進路指導に、信頼できる指標を導入することが目的だったのだが、次第に偏差値は独り歩きし、偏差値そのものが勉強の目的となっていく。II 英語の学習は英語が使えるようになることではなく、英語のテストの偏差値が上がるのが目的となっている。偏差値そのものは、テストの点数が正規分布すると仮定される母集団のなかで、どの位置にいるのかを示す統計的な指標にすぎない。

本章では「偏差値で人の能力が測れるのか？」と批判したいだけでなく、そもそも「人間を数値化して比較することで、私たちは一体何をしていることになるのだろうか？」と問いを立てたい。それは数値化・序列化がもたらすものを考えていくためである。

数値至上主義は偏差値に限った話ではない。社会に出たらあらゆる活動が数値で測られる。例えば大学教員である私は、毎年何本論文や著作を出版したのか、いくら助成金を獲得したのかを大学に報告する。業績の報告のあと、年度末に次年度の目標を立てて提出している。つまり目標と成果が数値で計測され評価されるのだ。民間企業に勤めている人たちは、もちろん私どころではない。

さらに、個人の問題だけではなく、学部としても次年度の数値目標を立て、年度末に達成状況を大学本部に報告する。大学全体でも同じデータ集めは行われており、各学部に作成させた六カ年ごとの中期計画のデータを集計して文部科学省へと報告して国からの評価を受けている。

Ⅲ 個人から組織、国家にいたるまで、子どもから大人にいたるまですべて数値で評価されている。数値に基づいて行動が計画・評価され、価値が決められるのだ。

### Ⅲ

7 科学哲学者のイアン・ハッキング（一九三六―）は、世界そのものが数学化したときに、世界は統計（確率）によって支配されることになったと書いている。  
\* 世界が自然法則によって支配されているとみなす決定論的な自然科学の展開のなかで統計学は発達し、社会および人間は統制可能で予測可能なものとなつていく。

アメリカのゴールデンアワーのテレビでは、（中略）露骨な暴力シーンよりも、確率について語られることの方が多いのである。新聞をにぎわせる恐怖が、確率を使って繰り返し語られる。その可能性〔偶然・確率〕chanceがあるのは、\*メルトダウン、\*癌、\*強盗、\*地震、\*核の冬、\*エイズ、\*地球温暖化、その他である。恐怖の対象は（たぶん）これらではなくて、実は確率そのものなのである。（中略）

このような確率の支配は、世界そのものが数学化されたところでのみ起こり得たものである。我々は自然に対して、それがどんなものであり、またどんなものであるべきなのか、根底的には量的な感覚を持っている。これは当たり前なことではなく、いくつかのささいな理由もあつてたまたまそうなのである。

統計学が力を持つ現状は、自然と社会のリアリティの在処<sup>ありか</sup>が具体的な出来事から、数字へと置き換わったことの象徴である。当初、統計は世界のリアリティについてのある程度の傾向を示す指標と見なされていたが、次第に統計が世界の法則そのものであると考えられるようになった。統計は事実に近い近似値ではなく事実そのものの位置を獲得するのだ。先のハッキングはいう。

たとえば一九八八年、日本が遂に世界一の長寿国になったことが注目を集めた。我々は、ちょうど日本企業が投資のための\*可処分資本を世界一蓄積しているのと同じくらいリアルに、平均寿命の伸びを日本人の生活や文化の現実的な姿と感<sup>8</sup>じてしまうのである。

このように、「平均寿命」という単なる数字が日本を構成する事実そのものとなる。一人ひとりの日本人は早く亡くなることも長寿のこともあるのだから、「世界一の長寿国」というラベルが個人の余命を説明するわけではない。ましてや一人ひとりの高齢者が具体的にどのような暮らしをしているのかを示すわけではない。独居なのか、病院で寝たきりなのか、認知症なのか、もしかしたら元気なのか、同じ九〇歳でもさまざまだろう。

\* さきほどエビデンスに基づく医学が患者を追い詰める様子を、がん患者であった宮野真生子の言葉で確認した。宮野の場合は自分で自分の病にかかわるリスクを気にしてしまうことが問題だった。

医療現場においてのみ、リスクが息苦しさをもたらすわけではない。学校や会社といった組織、そして社会全体は、リスクを予防するという視点でメンバーの行動を決め、行動を管理し、しぼりつけようとする。「そんなことしたら危ないよ」という注意を子ども頃に受けたことがない人は少ないだろう。学校の生活はさまざまな校則でしぼられていることが多いが、これらは大人が外部からなにか非難を受けないために、生徒をあらかじめしぼりつけるものである。子どものためと見せかけて、大人が自分の不安ゆえに子どもの行動を制限しようとしている。リスク計算は自分の身を守るために、他者をしぼりつけるものなのだ。

そもそもリスク計算を重んじる社会が生まれる前提として、社会学者のウルリヒ・ベックは、経済活動における個人主義、自己責任論による支配の問題点を挙げている。現代人はコミュニティによって守られることなく自分一人で自分の生活の維持に責任を負っているのであり、失敗があっても自分のせいなのだ。社会は個人を非難こそすれ守りはしない。自己の責任だけではない。「そんなことをして責任とれるんですか」という言葉を投げるときには他者を非難し、規範にしぼりつけている。

個々人が責任ある行為者とみなされ、行為がもたらすネガティブな結果のリスクが計算される。さらには、そのリスクに責任を負うのは、国やコミュニティといった集団ではなく個人である。このような社会では、未来のリスクを見越して個人個人が備えることが、合理的な行動となる。

このことは、人は外から強制されるのではなく自ら進んで、社会規範にしたがっていく身振りにつながる。高校生に規範意識を問うた大規模な調査でも、社会学者の平野孝典によると、現代の高校生は校則を守り、規則違反には憧れを持たないという結果が出た。<sup>10</sup>

社会の実質が変化して「不確定でリスクに満ちた社会」になったというよりも、数値化されたことで社会や未来がリスクとして認識されるようになった。ともあれ、数値による予測が支配する社会、そして個人に責任が帰される社会は不安に満ちており、社会規範に従順になることこそが合理的なのだ。弱い立ち位置に置かれた人ほど、上からやってきた規範に従順になることで、サバイブしようとするだろう。\*

(注) \*DV……………ドメスティック・バイオレンスの略。家庭内暴力のこと。

\*遍在……………広くあちこちにゆきわたってあること。

\*正規分布……………確率変数の分布曲線が正規曲線であるような分布。グラフに描くと平均のところが高くて左右相称の釣鐘型を呈する分布をいう。

\*イアン・ハッキング：引用部分は『偶然を飼いなす——統計学と第二次科学革命』（石原英樹・重田園江訳、木鐸社、一九九九）より筆者が引用したもの。

\*メルトダウン……………原子力発電所で起こる事故の一つ。

\*核の冬……………核戦争後に起こるとされる地球規模で気温が低下する現象。

\*可処分資本……………税金や経費などを除いた自由に使える資金。

\*さきほど……………抜粋本文Ⅲ部分より前の文章において、宮野氏が数値に基づく治療に対する考えを述べている。

\*サバイブ……………生き残ること。

問一、文章Ⅰの——線部1「働く意思がない人を税金で救済するのはおかしい」とあるが、このコメントに対して筆者はどのように考えているか。その説明として最もふさわしいものを次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者はコメントに全面的に同意し、コメントを裏付ける説明を展開している。

イ 筆者はコメントに強く共感する一方、反対論もあることを説明している。

ウ 筆者も同様の考えを持っていたことはあるが、現在は否定的である。

エ 筆者も同様の考えを持っていたことをひどく恥じ、自分自身を強く反省している。

問二、文章Ⅰの——線部2「社会が生活を支えること」の具体例の一つを文章Ⅰから漢字四字で抜き出して答えなさい。

問三、文章Ⅰの——線部3「どう行動したら私たち自身が生きやすくなるのか」とあるが、私たちは現在どのような行動を取るようになっていくか。「～な行動」につながる言葉を、文章Ⅲから三字で抜き出して答えなさい。

問四、文章Ⅰの——線部4「強迫観念」と同じ意味で使われている言葉を文章Ⅱから抜き出して答えなさい。

問五、文章Ⅱの——線部5「日本の若者の多くは受験勉強を強いられ、偏差値を気にしているだろう」について答えなさい。

- (1) 筆者は「偏差値」をどのように定義づけているか。文章Ⅱの中から四十五字で抜き出して、初めの三字と終わりの三字を答えなさい。
- (2) 筆者は「偏差値」の良い点と悪い点をどのようにとらえているか。それぞれ簡潔に説明しなさい。

問六、文章ⅡのⅠには、四字熟語が入る。解答欄の空欄に入る漢字を答えなさい。

問七、文章Ⅱの——線部6「画一的」の意味として、最もふさわしいものを次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一つに合わせしめくり、ひとまとめにするさま。
- イ 他との比較・対立を絶しているさま。
- ウ 特色も変化もなく型にはまっているさま。
- エ 比較の基準、判断のよりどころになるさま。
- オ 広く認められ成り立つ、ごく当たり前のさま。

問八、文章ⅡのⅡ・Ⅲに当てはまる語を、次の選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば      イ つまり      ウ また      エ しかし      オ そもそも

問九、文章Ⅲの——線部7「イアン・ハッキング」の論を引用することで、筆者は現在の社会のあり方にどのような傾向があることを読者へ示したか。

文章Ⅰの本文からそのことを表した十字を抜き出して答えなさい。

問十、文章Ⅲの——線部8「事実」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問十一、文章Ⅲの——線部9「リスクを予防するという視点」は、なぜ私たちに「息苦しさ」をもたらすのか。筆者の考えに当てはまらないものを次の選択肢の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア リスクを考える統計が世界の法則そのものだと考えたから。
- イ リスク計算は自分を守るために他者をしばらくつけるから。
- ウ リスクを気にする本人をどんどん追い詰めることになるから。
- エ リスクは個人を社会の繋がりがから切り離す働きがあるから。
- オ リスクは他者を非難し、規範にしばらくつける働きをするから。

問十二、文章Ⅲの——線部10において、「現代の高校生は校則を守り、規則違反には憧れを持たない」とあるが、なぜそのような方向性の高校生が増えたのか。筆者の考えを「リスク」という言葉を用いて、簡潔にまとめて説明しなさい。

問十三、筆者は文章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで、数値化が重視される現状と問題を述べている。また筆者は、本書「第5章 経験から語る」にて次のように述べて、経験の語りに意味を見出している。

個別の人生や個別の出来事を一人称の視点から分析するとき、外から見た客観的な指標では見えてこない具体的な像が生まれる。客観的なデータの背景に横たわる血肉の通った生の姿を理解できるようになり、読み手をなにかの行為へと触発する。

(中略)

一人ひとりの苦勞の経験は、科学的な客観性に回収することはできない。だから個別の苦勞をそのまま尊重し描き出すことには意味がある。そしてこのような苦勞は、即興の語りのなかに背景の文脈や対人関係の布置(引用者注……物を置きならべること。配置。)とともに保存される。それゆえに語りをそのまま大切に扱うことが、語る人の経験を大切にすることになる。

右の二重線部の筆者の見解を踏まえて、あなたが「大切に扱いたい」と考えた「他者の経験の語り」を一つ紹介しなさい。「大切に扱いたい」と考えた理由と共に、百字以上二百字以内で述べなさい。

【三】 次の文章は、「貝合」(『堤中納言物語』新編日本古典文学全集)のあらすじと、本文の抜粋(一)～(四)である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

蔵人少将(以下、「少将」)が、女性との出会いのきっかけを求めて明け方に忍び歩いていると、かわいらしい数人の少女たちなどが、あわただしく出入りする家を見つけた。少女たちは、貝合(二組に分かれて、貝の形状や色彩のすばらしさを競う、貴族たちの遊び)の準備をしていたのだが、少将には何をしているのかわからなかった。気になった少将は、生い茂るすすきの中にそっと忍び入ると、八、九才くらいの少女に見つかってしまった。そこで、忙しくしている理由をその少女に尋ねたところ、少女は次のように答えた。

(一)

「この姫君と上との御方の姫君と、貝合せさせたまはむとて、月ごろ、いみじく集めさせたまふに、あなたの御方は、大輔の君、侍従の君と、貝合せさせたまはむとて、いみじく求めさせたまふなり。まろが御前は、ただ、若君ひとところにて、いみじくわりなくおぼゆれば、ただ今も姉君の御許に人やらむとて。まかりなむ」と言へば、「その姫君たちの、うちとけたまひたらむ、格子のはさまなどにて見せたまへ」

少女は、少将の申し出をはじめは断った。しかし、少将が貝合の対決で姫君を勝たせることを引き合いに出したので、少女は少将を部屋の戸口にある物陰に引き入れた。少将がそこから姫君たちの様子をのぞくと、十二、三人の少女たちが翌日の貝合の勝負の準備のために騒いでいる様子と、この上なくかわいらしい十三歳くらいの姫君と若君(姫君の弟)が、若君の探し集めてきた貝の小箱を手に、たいそう悲しんでいる様子が見えた。

(二) 「<sup>b</sup>などか求めたまふまじき。『<sup>\*</sup>上は、<sup>\*</sup>内大臣殿の上の御許までぞ、請ひに、奉りたまふ』とこそは言ひしか。これにつけても、母のおはせましかば。あはれ、かくは」<sup>①</sup>とて、<sup>①</sup>涙も落しつべきけしきども、<sup>おと</sup>をかしと見るほどに、この<sup>\*</sup>ありつる童、「東の御方わたらせたまふ。<sup>\*</sup>それ隠させたまへ」

やって来た東の御方は、姫君よりは少し年上で、見た目が劣っているように見えた。東の御方は、手を尽くして貝を探し集めさせていたが、姫君に対しては貝を全く探していないと嘘をつき、貝を探し集めさせていることへの嫌味を言った。少将は、その様子を見守っていた。

(三) 言ふさま、いみじくしたり顔なるに、にくくなりて、「いかで、<sup>②</sup>こなたを勝たせてしがな」と、そぞろに思ひなりぬ。

この君、「ここにも、外までは求めはべらぬものを。<sup>\*</sup>わが君は何をかは」といらへて、居たるさま、うつくし。うち見まはしてわたりぬ。

このありつるやうなる童、三、四人ばかりつれて、「わが母の、常に読みたまひし観音経。わが御前負けさせたまつりたまふな」。ただ、この居たる戸のもとにしも向きて、<sup>i</sup>念じあへる顔、<sup>③</sup>をかしけれど、ありつる童や言ひ出でむと思ひ居たるに、立ち走りて、あなたにいぬ。いと細き声にて、

<sup>④</sup>かひなしと何なげくらむ<sup>\*</sup> 白波も君がかたには心寄せてむ

と言ひたるを、さすがに耳とく聞きつけて、「今、<sup>\*</sup>方人に。聞きたまひつや」「これは、誰が言ふべきぞ」「観音の出でたまひたるなり」「うれしのわざや。姫君の御前に聞こえむ」

少女たちは小さな声で詠まれた和歌を聞き、観音様が応じてくれたと思つて、そのことを姫君に報告した。そのような様子を見て、少将は人目を忍んで自宅に戻った。帰宅した少将は、姫君のために色とりどりの貝を立派な州浜すはま(裝飾台)にびっしりと敷き詰め、和歌を付した。翌朝、少将が姫君の家の前をうろついていると、昨日の少女が走ってきた。少将は、その少女をやり過ごし、昨日準備した州浜を家の手すりの上にこつそりと届け、昨日と同じ物陰に隠れた。

(四)

やをら見通したまへば、ただ同じほどなる若き人ども、二十人ばかり、さうぞきて、格子あげそそくめり。この州浜を見つけて、「あやし<sup>ii</sup>く」誰がしたるぞ、誰がしたるぞ」と言へば、「さるべき人こそなけれ。思ひえつ。この、昨日の仏のしたまへるなめり」「あはれにおはしけるかな」と、喜び騒ぐさまの、いとものぐるほしければ、いとをかしくて見居たまへりとや。

(注) \*上との御方の姫君…東の御方のこと。

\*月ごろ…何か月も。

\*あなた…あちら。

\*姉君…姫君の姉。

\*まかりなむ…もうおいとましなければ。

\*上…奥様。ここでは、東の御方の母のこと。

\*内大臣殿の上…内大臣殿の奥様。

\*ありつる童…さきほどの少女。八、九才くらいの少女のこと。

\*それ…若君が探してきた貝の小箱。

\*わが君…あなたさま。

\*白波も君がかたには心寄せてむ…白波も瀉に寄せるように、私はあなた方に心を寄せてお味方しましょう。

\*方人…味方。

問一、次は、「貝合」のあらすじと本文の抜粋(一)～(四)を読んだ生徒Aが作成した人物相関図(登場人物の関係性などを図示したもの)と、その人物相関図について生徒B・Cとともに検討した話し合いの会話文である。これらに関する、あとの問いに答えなさい。

【会話文】

生徒A 人物相関図を作ってみたけど、どうかな？

生徒B 私は侍従の君と大輔の君がどんな立場の人かわからなくて困っていたんだけど、なんでこういう配置にしたの？

生徒A ほら、東の御方が侍従の君と大輔の君に貝をたくさん集めさせているって、本文の抜粋(一)に書いてあったでしょう。東の御方は、お母さんも貝集めを支援していたから、この三人を横並びにしてみたんだ。

生徒B そこまで読み取れていなかったな。姫君の方は、お母さんもないし、<sup>X</sup>貝集めを頼れるのも弟の若君しかいなくてかわいそう。

生徒C 私が気になったのは、主人公の少将を端に配置したことかな。一般的に人物相関図は、主人公が中心になっている気がする。

生徒A 私もはじめは少将を中心に配置しようと思ったんだけど、なんだかうまくいかなくて。少将は基本的にずっと傍観しているだけだし、それを知っているのも八、九才くらいの少女しかいないから、あまり他の登場人物との関連を示せなかったんだよね。

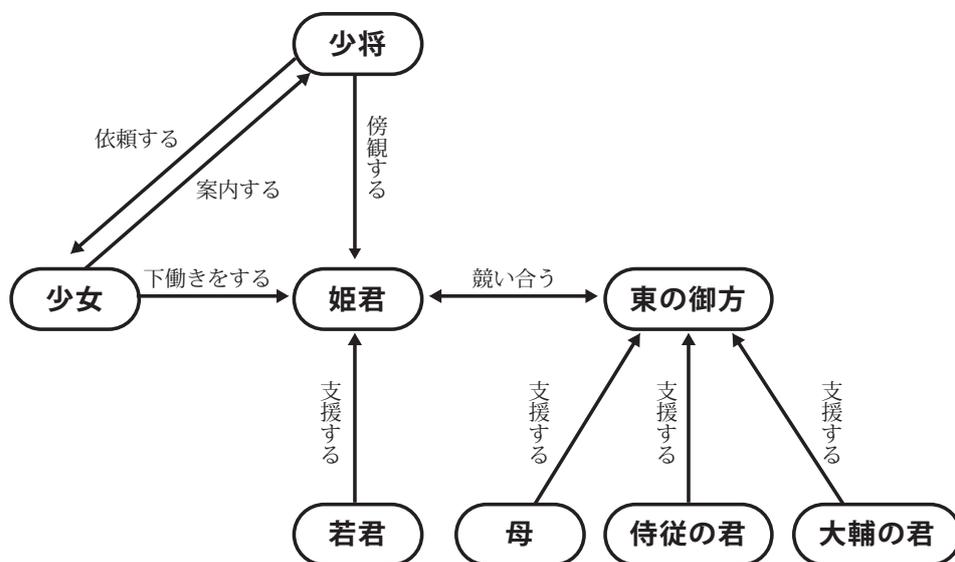
生徒C たしかに、この物語の中で姫君は一番多くの登場人物と関わっているね。

生徒B あれ、少将は傍観しているだけじゃなくて、<sup>Y</sup>姫君のことを支援するために貝の贈り物をたくさん持ってきていたよね。そのことは図に入れなくていいの？

生徒A はじめは図に入れようと思っていただけけど、本文の抜粋(四)で結局 <sup>Z</sup>の恩恵だと思いつまれていることと、最後には少将はまた傍観していることから、それしか書かないことにしたんだ。

生徒B なるほど。登場人物の関係性は物語の中で変化していくから、それを一つの図にまとめるためには情報を取捨選択しないといけないんだね。

【人物相関図】



(1) ——— 線部 X 「貝集めを頼れるのも弟の若君しかいなくて」とあるが、それが読み取れる部分を本文の抜粋(一)から二十字で抜き出して、初めと終わりの三字を答えなさい。

(2) ——— 線部 Y 「姫君のことを支援するために貝の贈り物をたくさん持ってきていた」とあるが、少将が姫君を支援したのはなぜか。選択肢からふさわしくないもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア 自分を家の中に案内してくれた少女の期待に応えたいから。

イ 東の御方がにくたらしくて、姫君を気の毒に思ったから。

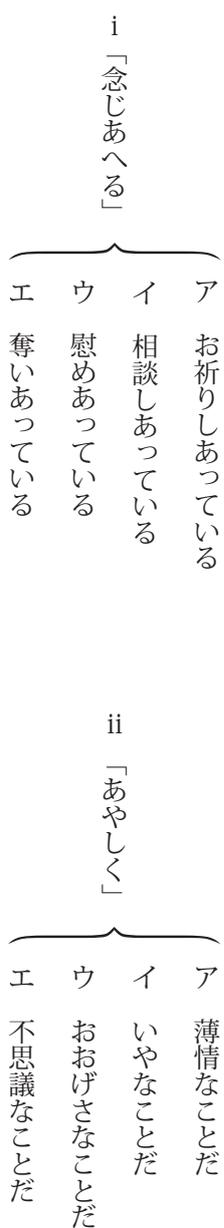
ウ 下働きの少女たちの喜ぶ姿が見てみたくなつたから。

エ 困り果てた若君が、こっそりと自分に頼んできたから。

(3) 会話文の空欄 Z に当てはまる語としてふさわしいものを、本文の抜粋(四)から漢字一字で抜き出して答えなさい。

問二、——— 線部 A 「たまはむ」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

問三、——— 線部 i ii の本文中の意味として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。



問四、——線部 a b の現代語訳（口語訳）として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

a 「いみじくわりなくおぼゆれば」

- ア そこまで心配なことはありませんので
- イ 本当にどうしようもなく思われますので
- ウ 心から信用ができるとお思いならば
- エ ひどく混乱なさっているのならば

b 「なか求めたまふまじき」

- ア 何を求められているのかわかりません
- イ 何ひとつ見つけることができませんでした
- ウ どうしてお探しにならないことがあるのでしょうか
- エ どうやっても探し集めることができません

問五、——線部①「涙も落しつべきけしき」とあるが、若君が泣きそうになっているのはなぜか。最もふさわしいものを選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母のいない自分たちは地道に貝集めをしている一方で、東の御方は父までも利用して貝を集めさせていることに対して、怒りやねたましさを感じているから。

イ 母がいない心細さに貝集めを諦めそうになっていたが、そんな自分を信頼してけなげに待ち続けてくれる姉の姫君を見て、ありがたさや嬉しさを感じているから。

ウ 東の御方が既に多くの貝を集めていることを恐れていたが、他界した母が姉弟のために残した遺言に鼓舞されて、情けなさや恥ずかしさを感じているから。

エ 母のいる東の御方は貝を集めるためのあてが十分にある一方で、母のいない自分たちでは十分に貝を集めることができず、悔しさやみじめさを感じているから。

問六、——線部②「こなた」とあるが、誰のことか。選択肢から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 少将      イ 姫君      ウ 東の御方      エ ありつる童

問七、——線部③「ありつる童や言ひ出でむと思ひ居たる」とあるが、ここには少将のどのような心情が込められているか。選択肢から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 東の御方の態度に怒った少女が、姫君をかばうために反撃に出るのではないかという緊張。  
イ 自分が隠れていることを知っている少女が、口を滑らせてしまうのではないかという不安。  
ウ 姫君を勝たせたいと思った少女が、自分に対して助けを求めて来るのではないかという困惑。  
エ 自分の方を向いた少女が、自分に気づいて姫君に紹介してくれるのではないかという期待。

問八、——線部④「かひなし」には、「(祈る) 甲斐がない」という意味の他に、もう一つの意味が込められている。もう一つの意味を、五字以内で考えて答えなさい。